

2005年4月19日

日本学術振興会御中

独立行政法人 産業技術総合研究所  
情報技術研究部門  
副部門長 橋田 浩一  
Tel. 03-3599-8211  
hasida.k@aist.go.jp

## 松尾豊君の推薦状

松尾豊君は、東京大学博士課程を終了後、2002年度から産業技術総合研究所に入所し、私が副部門長を勤める情報技術研究部門に勤務している。入所以前から、学会などで話す機会があり、入所後は私のチームのメンバーとして研究を行っている。

入所後の3年間、松尾君は、位置情報の利用に関する研究、ユーザモデルに関する研究、Webマイニングに関する研究を行った。ユビキタス情報環境における位置情報の利用に関する研究は、同君にとって新しい分野であったが、ナビゲーションのデモシステムを構築するなど、短期間に成果を出し始めている。さらに、空間の意味論に関する考察を行っており、今後、より深い研究が進展していくことが期待できる。また、Webマイニングに関する研究では、研究者ネットワークの抽出などの手法を構築するとともに、システムの運用も行っている。

同君の研究の優れた特色は、問題の本質部分についての深い考えに基づき、的確にしかも簡潔な形で解法を構成する点にあるといえる。また、自立性に富み、自ら問題を発見し、試行錯誤を行いながら短期間で独創的な成果を出す能力も持っている。

大学時代には、人工知能の研究室において、仮説推論法についての研究を行い、数理計画法を組み込んだ高速推論法で優れた研究成果を挙げた。卒業論文の成果を、人工知能学会論文誌とPRICAI98に発表しているが、これは学部の卒業論文としては稀なことである。博士課程前半では、さらに仮説推論に関する解法を深め、ユニークで優れた手法

を構成した。この成果も人工知能学会論文誌に掲載されている。

その後、急速に拡大している情報空間に目を向け、それに対処する研究へと向かい、「情報の価値」という視座を持ち、新たな研究を自主的に切り拓きつつある。具体的には、テキストマイニングとWebマイニングに関し、1) テキスト文書からの主題となる重要語の抽出、2) テキスト文書の構造に基づくクラスタリング、3) Web上のページ間の新概念距離、といった研究を自主的に行った。それぞれ、人工知能学会論文誌や情報処理論文誌、国際ジャーナルに掲載されており、博士課程における研究として、十分な成果を挙げている。また、キーワード抽出の成果は、2002年度人工知能学会論文賞も受賞した。

同君は、当センターにおける研究以外にも積極的に活動を行っている。東京大学の出身研究室で、学生に対して研究の助言やテーマの設定を行い、言語処理やWebに関する研究を行っている。さらに、人工知能学会の編集委員として、著名な人工知能研究者にインタビューする活動も行っている。

松尾君の研究受け入れ先であるStanford大のStanley Peters教授は、当センターのアドバイザーボードのメンバーでもあり、15年に渡る共同研究の実績があるため研究の内容も熟知している。対話の研究を行っており、同君の目標とする情報の意味や価値といったテーマと非常に親和性が高く、効果的な研究環境とよい刺激が得られると考えられる。

以上のように、松尾君は研究者としての創造性に関する高い能力を有し、新しい情報に関する研究に対して高い意欲を持つ、今後の発展が大きく期待できる若手研究者である。海外研究が非常に効果的であると判断できるので、同君を推薦する。